ISO 9001
認証取得

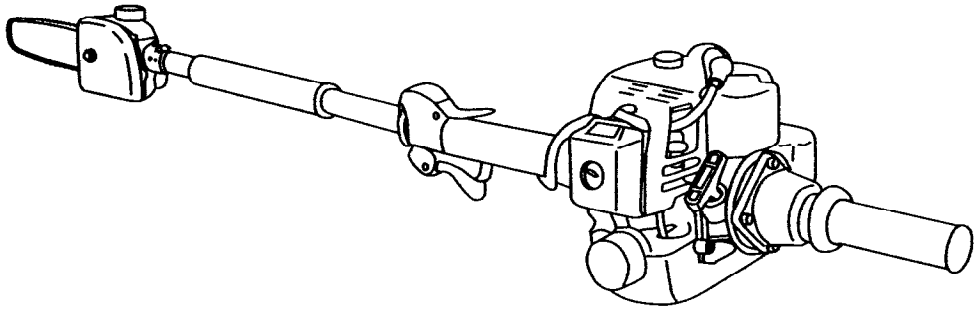
shindaiwa

取扱説明書

高枝プルーナ

P230-SS

ショートタイプ



⚠注　意

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、内容をよく理解したうえでご使用ください。
不適切な操作や保守は、重大な事故につながるおそれがあります。
なお、本書はいつでも利用できるよう、大切に保管してください。

目次	項
1．安全にご使用いただくために	1
2．仕様	12
3．各部の名称	13
4．組立の手順	15
5．エンジンの始動と停止	19
6．切断作業	24
7．点検・整備	28
8．長期保管	37
9．故障の診断と処置	38
10．主な消耗品	42

新ダイワ工業株式会社

はじめに

新ダイワ高枝プルーナをご購入いただきありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し、安全に使用してください。この取扱説明書で分からないことがありましたら、お求めの販売店かお近くの弊社営業所にお問い合わせください。

高枝プルーナは枝切り・枝払いをするための専用の機械です。人的負傷、火災を予防するために安全を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因になります。

シグナル用語の説明

この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。

⚠危　険　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。**

⚠警　告　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。**

⚠注　意　**取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。**

1．安全にご使用いただくために

警告ラベルの説明



この取扱説明書をよくお読みください。



この機械を運転中は常に耳栓、保護メガネ、保安帽を着用してください。



この機械を運転中は常に耳栓、保護メガネ、保安帽、長ズボン、スリップ防止底の安全靴、滑り止めのついた防振性のある手袋を着用してください。



疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。

1－1　ご使用前に

⚠危　険

- ■ 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）に高枝プルーナを使用させないでください。
- ■ 本機を他人に貸す時は、必ず取扱説明書を添付してください。
- ■ はじめて高枝プルーナを使用する方は使用方法を販売店などからよく教わり、使用方法を十分習得してから使用してください。
- ■ 草刈り作業や立ち木の伐倒（伐木）など枝切り・枝払い以外の用途に使用しないでください。

■ 作業中は石、金属やプラスチック等の木質でない物を切断しないでください。ソーチェンが切れたり、物が飛散したり、キックバックが発生するなどして大変危険です。

■ ソーチェンがフェンスやワイヤなどの硬いものに当ったときは、ただちにエンジンを停止し、ソーチェンに異常がないことを確認してください。異常がある場合はただちに新しいソーチェンに交換してください。

■ 曲がり、変形、クラック、破損の生じたソーチェンおよびガイドバーは廃却し、使用しないでください。

■ 作業する場合、高枝プルーナを使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰かが近づいてきた場合は、エンジンを停止し、ソーチェンを止めてください。

■ エンジン始動時および運転時は絶対にソーチェンに手や足を近づけないでください。

■ 屋内などの換気の悪い場所では、決して高枝プルーナを運転しないでください。排気ガスにより、ガス中毒をおこします。

■ 排気ガスを直接吸ったり、人体に直接当たるような使い方をしないでください。

■ 電線・電話線の付近等で、接触のため感電の恐れが有る場合は、接触・感電を防止する処置を行うまでは使用しないでください。

■ 高枝プルーナで切断作業を行うと、チェンオイルや切り粉の飛散・切断された枝などが落下して重大な事故となる恐れがあります。
それらの飛散・落下する恐れのある所に、人や車、電線や電話線などが無いことを確認して作業をしてください。

⚠警　告

■ 決して高枝プルーナを勝手に改造しないでください。

■ 疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを止め、作業を中止してください。



■ 夜間および天候の悪いときは使用しないでください。

■ 新ダイワ工業が指定したガイドバーおよびソーチェン以外は使用しないでください。

■ ソーチェンを装着および交換する際は必要な部品をすべて組み込んでください。必要な部品を組み込まない場合にはソーチェンが外れ、運転者や付近の人に飛んで大ケガになる恐れがあります。

■ 振動障害を防止するため、高枝プルーナの操作時間は 1 日 2 時間以内にとどめ、10分以上の連続運転はしないでください。

■ 正しく目立てしたよく切れるソーチェンを使用してください。キックバックの発生が少なくなり、振動が低下します。

■ 混合燃料を使用しますので、高枝プルーナのそばで喫煙やたき火をしないでください。火災発生の恐れがあります。

■ 作業前に燃料漏れがないか確認を行ってください。漏れがあった場合はただちに修理してください。

■ マフラーやマフラーから出る排気は非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。また、直接人体を近づけないでください。

■ 作業前に高枝プルーナの点検を行ってください。この時、破損した部品は交換し、ネジの脱落やゆるみのないことを確認してください。

■ 規格に合った保安帽を正しく着用してください。落下物や飛散物によりケガをする恐れがあります。

■ 必ず保護メガネをつけてください。

■ 必ず耳栓をつけてくだい。聴覚障害をおこす恐れがあります。

■ 高枝プルーナを取り扱うときには、厚手で滑り止めのついた防振性のある手袋を着用して手を保護してください。

■ 裾のひらひらした服、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。頭髪は肩から下に垂れないように覆ってください。枝や機械の可動部にからまる恐れがあります。

■ 靴は底に滑り止めのついた安全靴を使用してください。雨の日は、滑りやすいので作業をさけてください。



⚠注　意

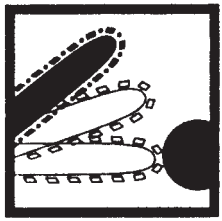
■ ソーチェンの装着および交換や調整・目立てをする際は必ず手袋をしてください。ソーチェンは鋭いカッターがついています。素手でさわるとケガをします。

■ 高枝プルーナを運転すると、潤滑のためのチェンオイルがソーチェン部より飛び散ります。衣服や目などの身体に付着する恐れがありますので自分の作業位置や他の作業者など周囲を確認して使用してください。

1—2　キックバック

⚠ 危　険

■ ガイドバーの先端、とくに上部1/4 が固い物に当たったり、はさまれたときソーチェンの回転の反動でガイドバーの先端がはねあがったり、ガイドバーが後方に押し出され、たいへん危険です。この反動をキックバックと言います。この場合、運転者は高枝プルーナをコントロールできなくなり、重大な事故につながる場合があります。ガイドバーの先端で切断しないようにしてください。



■ 正しく目立てしたよく切れるソーチェンを使用してください。
振動やキックバックの発生が少なくなります。

1—3　給油

⚠ 警　告

■ ガソリンと 2 サイクル専用オイルの混合および給油は、屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップを外して行ってください。急に燃料キャップをはずすと燃料が吹き出すことがあります。

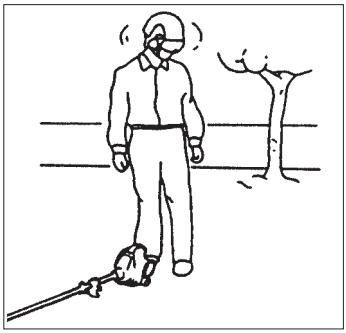
■ こぼれた燃料は本体から拭き取ってください。

■ 燃料の持ち運びや保管など、取扱いには十分注意してください。

1—4　始動

⚠ 警　告

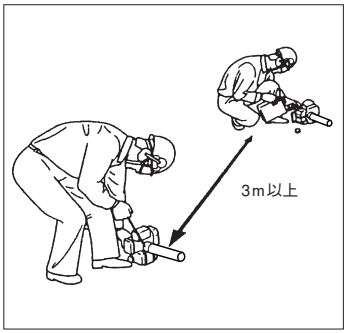
■ エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定の良い場所で行ってください。



■ 始動時は周囲の安全を確認し、一人（補助者なし）で行ってください。

■ エンジンを始動する場合、ソーチェンが他の物体に接していないことを確認して下さい。エンジンを始動するとすぐにソーチェンが動きだすことがあります。

■ エンジンがアイドリング時、ソーチェンが回転しないことを確認してください。アイドリング時、ソーチェンが回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転数を下げ、ソーチェンが回転しないようにしてください。

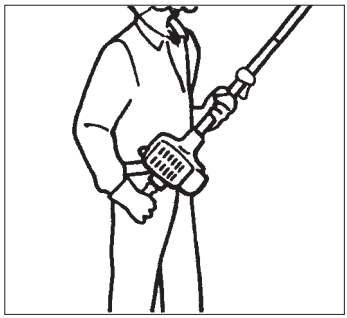


■ 漏れた燃料への引火防止のためエンジンの始動は、給油場所から3m以上離れた場所で行ってください。

1—5　作業

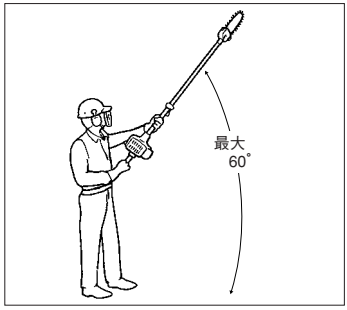
⚠ 警　告

■ 作業前にはガイドバーやアウタパイプが確実に締め付けてあることを確認してください。



■ 高枝プルーナを操作するときは3ヶ所のグリップのうち2ヶ所のグリップを両手でしっかり握ってください。その他の部分は持たないでください。

■ しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業を行ってください。



■ 作業は水平から60°の範囲で行ってください。

■ 作業は原則として一人で行ってください。数人で作業する場合は他の人に危険のおよばない間隔をあけて作業してください。

■ 高枝プルーナを使用している人に近づくときはお互いに合図を行い、エンジンを停止し、停止を確認した後に前から近づいてください。

■ ソーチェンにものがはさまったり、からまった場合はエンジンのスイッチを切り、ソーチェンが停止した後に、取り除いてください。

■ 高枝プルーナを落としたり、何か異物に当てたときは、エンジンを止めて損傷の有無を調べてください。もし損傷があれば使用せず、すみやかに修理してください。

■ この取扱説明書の作業方法にしたがって枝切り・枝払い作業を行ってください。

■ 燃料キャップは休憩時に増し締めしてください。運転中に振動でゆるんでいる可能性があります。

■ 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止して、火気を近づけないでください。

■ フルスロットルで切断を行ってください。フルスロットルの場合切断力が最大となり、キックバックが起こりにくくなります。

■ 枝を切り落す時は、落ちる位置を確かめ自分や他の人の安全および電線、電話栓など設置物の破損防止を常に確認してください。

■ 枝などが、自分や他の人に落下する恐れのある場合は作業を行わないでください。

⚠注　意

■ 運転中または停止直後に高温部（マフラー、シリンダなど）に触れないでください。ヤケドをします。

■ 運転中は高電圧部（プラグキャップ、プラグコードなど）に触れないでください。感電する恐れがあります。

1—6　停　止

⚠危　険

■ エンジン停止後、あるいはスロットルレバーを戻した後も、ソーチェンはしばらくだ性で回転し危険です。スイッチを切った時には、ソーチェンが停止するのを待って、停止を確認した後に高枝プルーナを地面に置いてください。

1—7　点検・整備

⚠危　険

■ 点検・整備（ソーチェン交換、掃除など）を行うときは必ずエンジンを停止し、ソーチェンが停止していることを確認してから行ってください。

⚠警　告

■ 混合燃料はたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のない所で行ってください。

■ 燃料キャップや燃料タンクおよびキャブレターなどから燃料漏れがないか定期的に確認してください。

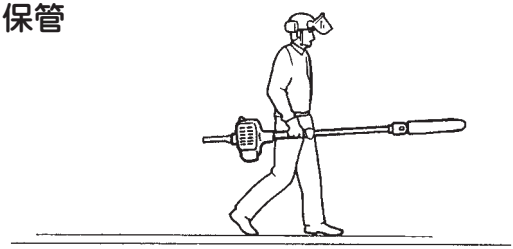
■ 整備と修理を行うときは新ダイワ純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になる恐れがあります。

■ 取扱説明書に記述がない整備や修理は行わないでください。そのような整備や修理は、お求めの販売店かお近くの弊社営業所に依頼してください。

⚠注　意

■ 点検・整備・掃除などはエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドの恐れがあります。

1—8　移動・保管



⚠警　告

■ 移動時あるいは保管時にはエンジンを停止してください。また、ソーチェンにチェンカバーをしてください。

■ 移動、運搬時は、切断部（ソーチェン部）が他の人や物に当たってけがや破損などの、事故が無いようにしてください。

⚠注　意

■ 保管の際は、燃料漏れ、破損、ケガなどを防止するために、高枝プルーナを転倒しないように安定した場所に置いてください。

■ 年少者（子供）の手が届かない乾燥した冷暗所に保管してください。

■ 2～3日以上保管する場合は、燃料タンクおよびキャブレター内の燃料を空にしてください。

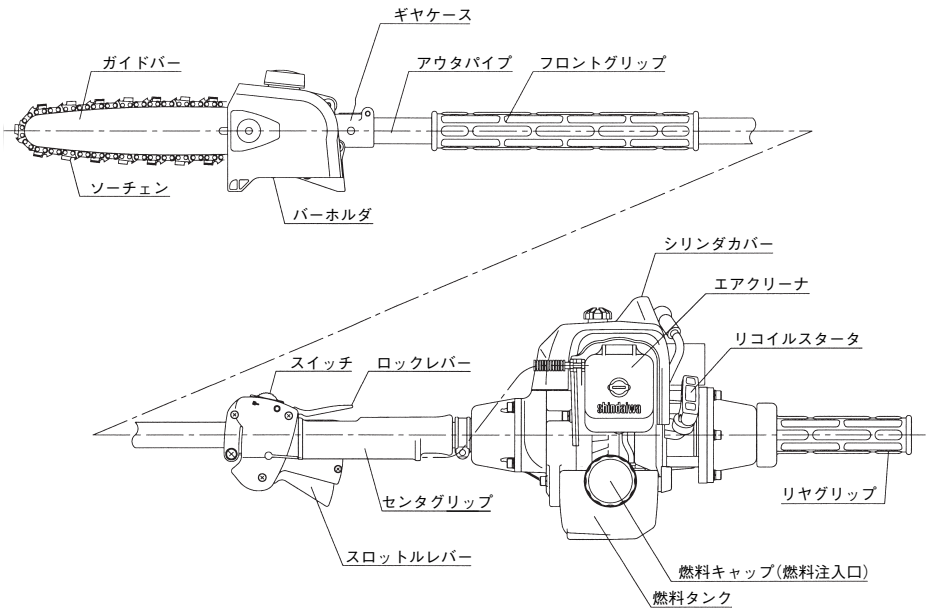
2．仕様

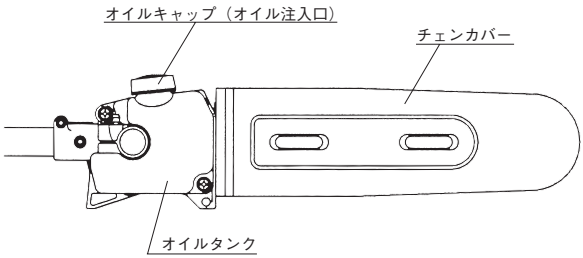
項目 ＼ モデル名		P230-SS
エンジン	形式	強制空冷2 サイクルガソリンエンジン
	排気量 mL	22.5
	使用燃料	（ガソリン）25：(2 サイクル専用オイル）1
	点火方式	電子点火方式
	スパークプラグ	チャンピオンCJ8
	始動方式	リコイルスターター
	キャブレタ	ダイヤフラム式
	燃料タンク容量 mL	550
動力伝達方式	クラッチ方式	乾式自動遠心クラッチ
	増速装置	スパイラルベベルギヤ
	増速比	1.06
	潤滑方式	グリース循環（リチウム系グリース使用）
ギヤケース	ガイドバー長さ mm	200（8"）
	ソーチェン	25AP-48E
	ピッチ	1/4"
	ゲージ	0.050"
	スプロケット歯数	9
	チェン給油方式	油量調整式自動給油（3 段階）
	チェンオイル	新ダイワ純正チェンオイルまたはSAE10W-30相当オイル
	オイルタンク容量 mL	110
本体乾燥質量 kg		※1 5.0
外形寸法（L×W×H）mm		1420×230 ×230

※　本仕様は予告なく変更することがあります。

※1 本体乾燥質量にチェンカバーは含まれません。

3．各部の名称


ギヤケース
ガイドバー
アウタパイプ
フロントグリップ
ソーチェン
バーホルダ
シリンダカバー
エアクリーナ
リコイルスタータ
スイッチ
ロックレバー
センタグリップ
リヤグリップ
スロットルレバー
燃料キャップ(燃料注入口)
燃料タンク


オイルキャップ（オイル注入口）
チェンカバー
オイルタンク

No.	名　　称	機　　能
1	ソーチェン	カッターの付いたチェンです。木材を切断します。
2	ガイドバー	ソーチェンの支持と案内をします。
3	フロントグリップ	機械を保持するためのグリップです。
4	リヤグリップ	機械を保持するためのグリップです。
5	スロットルレバー	エンジンの回転数を調節するために使用します。
6	ロックレバー	スロットルレバーが不用意に動かないようにする安全装置です。
7	スイッチ	スイッチをSTOPにするとエンジンが停止します。
8	バーホルダ	ソーチェン、スプロケットをカバーし、ガイドバーを固定します。
9	オイルキャップ	オイルタンクのふたです。
10	オイルタンク	チェンオイルを入れる容器です。
11	アウタパイプ	エンジンの回転力をソーチェンに伝える伝動軸が中を通っており、ソーチェンを操作するさおとなります。
12	ギヤケース	エンジンの回転を増速し、ソーチェンを動かす機構が格納されています。
13	シリンダカバー	エンジンを被うカバーです。
14	エアクリーナ	エンジンに吸引する空気のゴミを取り除くフィルターです。
15	燃料タンク	燃料を入れる容器です。
16	燃料キャップ	燃料タンクのふたです。
17	リコイルスタータ	ロープを引いてエンジンを始動します。
18	チェンカバー	本機の持ち運びや保管の時ソーチェンに装着するカバーです。

4．組立の手順

4―1　外観と付属部品のチェック

本機は工場出荷の際に厳密な検査をしておりますが、輸送途中での損傷やビス・ナット類のゆるみ、脱落がないか点検してください。

点検の結果、異常や欠品があった場合は、ただちにお求めの販売店かお近くの弊社営業所までご連絡ください。
そのまま使用されますと、重大な事故となるおそれがあります。

付属部品

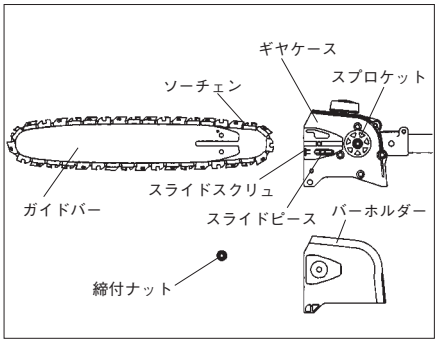
ガイドバー、ソーチェン、チェンカバー、プラグレンチ
取扱説明書、保証書

4－2　ガイドバーとソーチェンの取付

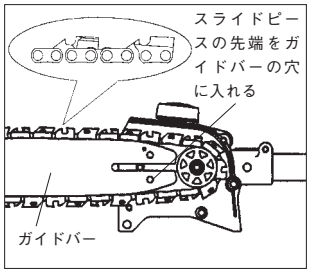
下記の手順でガイドバーとソーチェンを取り付けてください。

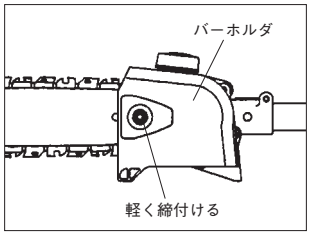
⚠注　意

- **ソーチェンを装着する際は必ず手袋をしてください。**
- **ソーチェンは、右図の拡大図に示す向きで装着してください。**



① スライドスクリュ（チェン引きねじ）を左に回し、スライドピースをギヤケースの後方に移動させます。
② ソーチェンの方向を確認して、ソーチェンをガイドバーの溝にはめ、次にスプロケットにはめます。
③ ガイドバーを本体から遠ざける方向に引き、スライドピースの先端をガイドバーの穴に入れてください。バーホルダーを取り付け、締付ナット（1箇所）で軽く締付けてください。その後、ソーチェンの調整作業に入ります。





4－3　ソーチェンの点検と調整

⚠ 警　告

- **作業途中でソーチェンを点検・調整するときは、エンジンを停止して行ってください。また、ガイドバーとソーチェンが十分に冷えてから実施してください。**
- **ソーチェンの張りがゆるい状態で使用しますと、ソーチェンがはずれて思わぬ事故になります。必ず使用前および作業途中に時々点検してください。**

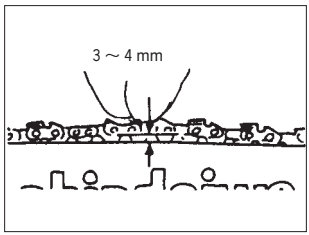
新しいソーチェンを使用する場合は、ソーチェンが伸びやすいため、張り調整をひんぱんに行ってください。

ソーチェンの調整は、安全性や寿命あるいは切断性能に大きく影響しますので適正に調整してください。張りが強いときは、ソーチェン、ガイドバーが焼けたり摩耗し、張りが弱いと、ソーチェンがガイドバーから外れたりスプロケットやガイドバー等の部分的な摩耗を早めます。

新しいソーチェンはチェンオイルに一晩浸してから使用してください。

1．点検

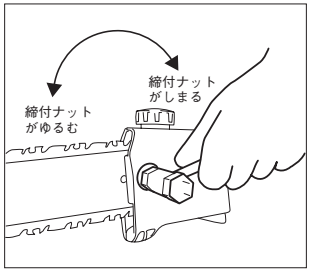
ガイドバーの中心近くのソーチェンを指で軽く持ち上げたとき、ガイドバーから3 ～4mm 浮いた状態になっていることを確認してください。もし範囲外のときは、次項の手順に従って調整してください。



2．調整

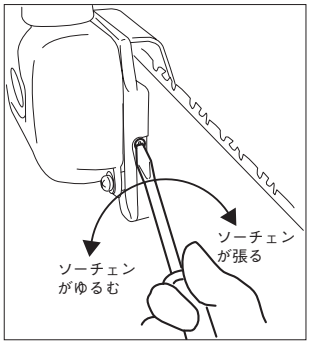
① 作業途中で調整するときは、バーホルダーの締付ナット（1箇所）を付属工具のプラグレンチの小さい方で、約1回転ゆるめてください。（反時計方向）

② ガイドバーの先端を持ち上げソーチェンを張り、ドライバーでスライドスクリューをまわしてください。



時計方向にまわす：ソーチェンが張ります。

反時計方向にまわす：ソーチェンがゆるみます。



③ 調整が終わったらバーホルダーの締付ナット（1箇所）を付属工具のプラグレンチの小さい方で、手で確実に締付けてください。

5. エンジンの始動と停止

5－1　燃料の給油

1．燃料

燃料は必ず、無鉛ガソリン25に対して 2 サイクル専用オイル 1 の割合で混合した混合燃料を使用してください。

燃料は混合容器に 2 サイクル専用オイルを先に入れ、後からガソリンを加えてよく混合してください。

（例）

ガソリン25　：　2 サイクル専用オイル 1	
（リットル）	（cc）
1	40
4	160
8	320

■　正しい混合比の燃料を使わないと、適正な性能がでなかったり、エンジン焼き付きの原因となります。

■　燃料は常に新しい物を使用してください。2 ～ 3 ヵ月以上保存したり、異物が混入した燃料を使用すると故障の原因となります。

2．給油手順

⚠警　告

■　給油は屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。

■　平らな場所で給油してください。

① 異物やゴミをタンク内に入れないために、燃料を給油する前にキャップのまわりをよく掃除してください。
② 給油する前に燃料をよく混合してください。
③ 燃料タンクの燃料キャップをゆっくりと外し、燃料を給油してください。
④ 給油後は確実にキャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

5－2　チェンオイルの給油

⚠注　意

■ **チェンオイル無しで運転しないでください。ソーチェンとガイドバーが焼き付き、破損します。**

■ **チェンオイルにはチェンソー用チェンオイルまたはSAE 10W-30相当のオイル以外は使用しないでください。故障の原因となります。**

チェンオイルはソーチェンとガイドバーの摩耗を防ぎ、切断をスムーズにする大切な役目をします。燃料補給のときに専用チェンオイル、応急時にはSAE 10W-30相当のオイルを補給してください。

⚠注　意

■ **チェンオイル１に対して灯油１以上の割合にはしないでください。火災の原因となり大変危険です。**

注　記

■ **寒冷地ではオイルが固くなり補給できなくなることがあります。この場合、冬期用チェンオイルを使用するか、またはチェンオイルに対して灯油を若干混ぜたものを使用してください。またヤニの多い木を切断するときも同様に灯油を小量混ぜて使用するとヤニの付着が少なくなります。**

１．給油手順

① 異物やゴミをタンク内に入れないために、オイルを給油する前にキャップのまわりをよく掃除してください。

② オイルタンクのキャップを外し、オイルを給油してください。

③ 給油後は確実にキャップを締め、オイルタンクからオイル漏れのないことを確認してください。

5－3　エンジンの始動

⚠ 危　険

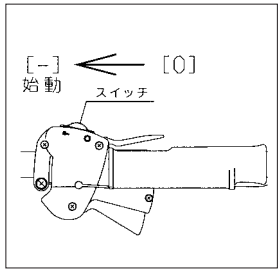
■ エンジンを始動する時、ソーチェンが他の物体に接触していないことを確認してください。また、そばに他の人がいないことを確認してください。始動後すぐにソーチェンが動きだすことがあり、大変危険です。

⚠ 注　意

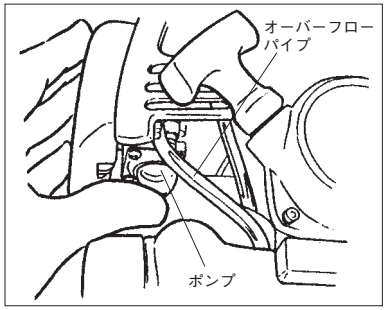
■ 始動時にリコイルスターターのロープを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。
■ リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。

1．エンジンが冷えている時、または燃料切れで燃料を給油した時

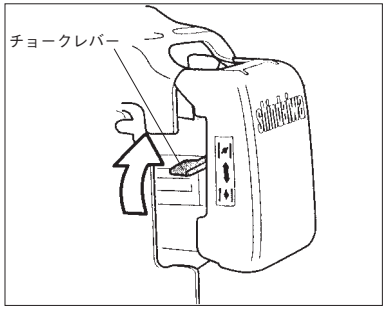
① スイッチを「ー」の位置（ギヤケースの方向）にスライドさせてください。



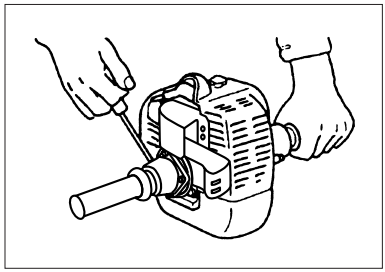
② キャブレターのポンプを数回押し、オーバーフローパイプから燃料が流れ出ることを確認してください。（この時、燃料の泡が無くなるまでポンプを押してください。）



③ チョークレバーをチョーク|⁄|（閉じる）の方向に押してください。



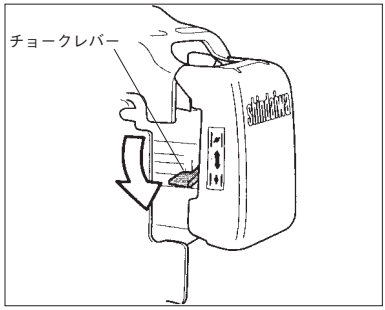
④ 高枝プルーナを足場のしっかりした平地に置き、図のように左手でエンジンを押さえて、リコイルスターターを引いてください。つめがかかるまではゆっくり引き、かかって重くなった位置から強く引いてください。爆発音がしてすぐに停止した場合はチョークレバーを|↟|（開く）方向に戻して再度リコイルスターターを引いて始動してください。



⚠注　意

■ **チョークレバーをチョーク|⁄|（閉じる）の方向に押して始動するとき、最初の爆発音がしたら、必ずチョークレバーを|↟|（開く）の方向に戻してから再始動してください。チョークレバーを戻さないと燃料の吸い込みすぎになり、始動ができなくなります。**

⑤ エンジンが始動したら、チョークレバーを|•|（開く）の方向に戻してください。チョークレバーを戻す前に停止した場合もチョークレバーを戻して再始動してください。



⑥ 2～3分間アイドリング状態で暖気運転してください。

2．エンジンが暖まっているとき

①②④の順序で始動してください。

5－4 始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作をおこなってください。

① スパークプラグをプラグレンチで外し、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。
② スパークプラグが濡れている場合はスパークプラグを乾燥してください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを引き、数回空転させて燃料をシリンダ内から追い出してください。

⚠警 告

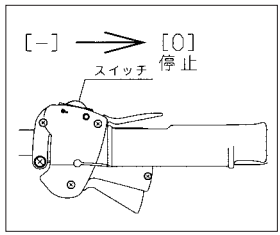
■ 火気を近づけないでください。火災の原因となります。

③ スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップをつなぎます。エンジンが暖まっている場合の方法で始動してください。
④ スパークプラグが濡れていない場合は燃料タンクから燃料が届いていないので、燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。点検・整備の項を参考にして点検をするか、またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

5－5　停止

① スロットルレバーをもどし、エンジンをアイドリング状態にします。

② ストップスイッチを右図のように「ＳＴＯＰ」・「0」側にスライドさせてください。



⚠注　意

■ **万一、スイッチの故障などで、エンジンが停止できなくなった時は、チョークレバーを|⁄|（閉じる）方向に押してください。エンジンが停止します。**

6．切断作業

⚠危　険

■ **他の作業者と作業位置が上下にならないようにしてください。切り粉の飛散・切断された枝などが落下したり、高枝プルーナが落ちた時、重大な事故となる恐れがあります。**

⚠警　告

■ **高枝プルーナを運転中は常に保護メガネ、耳栓、手袋、保安帽を着用してください。**

■ **使用中、ソーチェンに何か噛み込んで動きが止まってもエンジンは回転し続けます。**
この場合、必ずエンジンを停止してから取り除いてください。

■ **高枝プルーナを操作するときは3ヶ所のグリップのうち2ヶ所のグリップを両手でしっかり握ってください。ソーチェンが動いている時は、絶対に手を離さないでください。**

6－1　操作の方法

⚠警　告

- **作業中は他の人に危険のおよばないように注意してください。切りくずの飛散や枝などが落下して大ケガをする恐れがあります。**
- **枝を切り落す時は、落ちる位置を確かめ、自分や他の人の安全を常に確認してください。**
- **高枝プルーナを操作するときは3ヶ所のグリップのうち2ヶ所のグリップを両手でしっかり握ってください。その他の部分は持たないでください。**
- **しっかりした足場の上で安定した姿勢で、作業を行ってください。**
- **作業は水平から60°の範囲で行ってください。**
- **安全に作業ができるよう、周囲をきれいにしておいてください。**

⚠注　意

- **枝などを切らない状態でスロットルレバーをいっぱいに引かないでください。エンジンは空ぶかし（無負荷高速）になり、エンジンやシャフトを破損させる原因となります。**
- **クラッチがつながってソーチェンが回転していても、低速にしすぎると共振現象による振動、異音を感じることがあります。この状態で作業を行うと、クラッチの摩耗が早くなります。回転を上げてクラッチの共振が無い回転数で使用してください。**

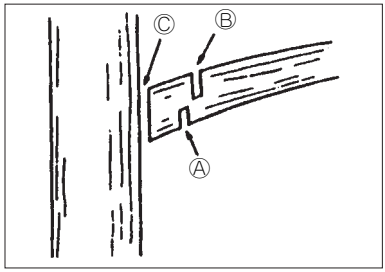
エンジン始動後、スロットルレバーを握ると、エンジンの回転速度が上がり、ソーチェンが動き始めます。

1．効率のよい使い方

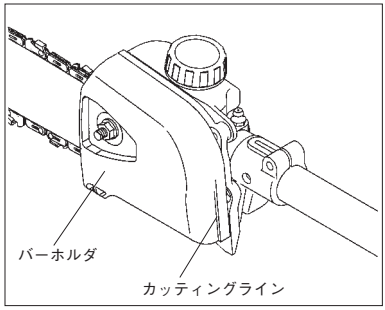
スロットルを全開にし、切断時のエンジン回転数が8000～9000rpmの範囲になるようにソーチェンを軽く木に押し当て、切断するのが最も効率のよい使い方です。ソーチェンを木に強く押し当てて、エンジン回転数を下げて使用するのは使用者の疲労を増し、振動障害を起こし易く、切断性能が著しく低下するだけでなく、反動があって危険です。

2．立木の枝切り

右図のⒶのところを下側から1/3 切ったあと、Ⓑのところを上側から切り落とします。最後に残ったⒸの部分を根元から切り落とすと楽に切ることができます。



■ ソーチェンの位置が見えにくい作業姿勢の場合は、バーホルダーに付いているカッティングラインを目印として切断作業を行ってください。
カッティングライン上でソーチェンが駆動していますのでソーチェンの位置が容易に判断でき、作業効率が上がります。



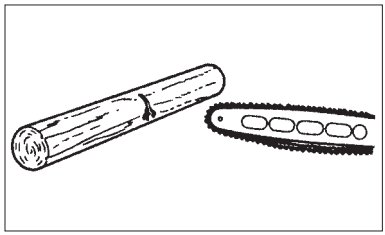
6－2　チェンオイルの吐出点検と給油量の調整

本機にはソーチェンを回転させると自動的にチェンオイルが給油される自動給油装置を装備しています。

1．吐出点検

① エンジンを始動し、スロットルレバーを引いてください。ソーチェンが回転します。

② ガイドバーを乾いた木や地面に向けてソーチェンを回転させ、木や地面に付いたオイルの跡からチェンオイルが出ていることを確認してください。



2．給油量の調整

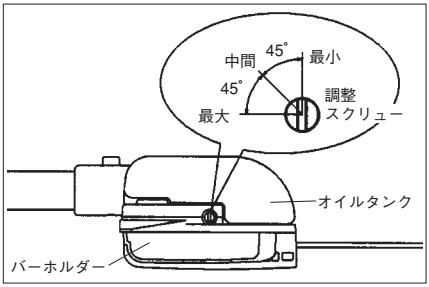
出荷時は最小にセットしてありますが、必要に応じて調整スクリューをマイナスドライバーで回し流量を変更してください。
オイル給油量は、気温・オイル種類によって変化します。
切断作業前には必ず調整してください。

① ギヤケース下部の調整スクリューにマイナスドライバーを差し込んでください。

② 調整スクリューを軽く押し込んで回してください。
オイルポンプの吐出量が 3 段階に調整できます。

⚠注　意

■　調整スクリューは必ず押し込んで回してください。オイルポンプが破損します。



7．点検・整備

⚠ 警　告

- **混合燃料はたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のないところで行ってください。**
- **点検・整備は必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。**

点検・整備表

項目		始動前	毎週	毎月	必要な場合
エアフィルター	掃除	○			
キャブレター	調整				○
スパークプラグ	点検、掃除			○	
シリンダーフィン	掃除			○	
燃料フィルター	掃除			○	
スプロケット	点検、交換		○		
ギヤケース	グリース補給			○	
ガイドバー	点検、交換、掃除	○			
ソーチェン	点検、目立	○			
スクリュー・ナット	点検、増締	○			
燃料タンク、燃料パイプ キャブレタ	漏れ点検	○			
フレキシブルシャフト	グリース補給		○		

7－1　日常の手入れ

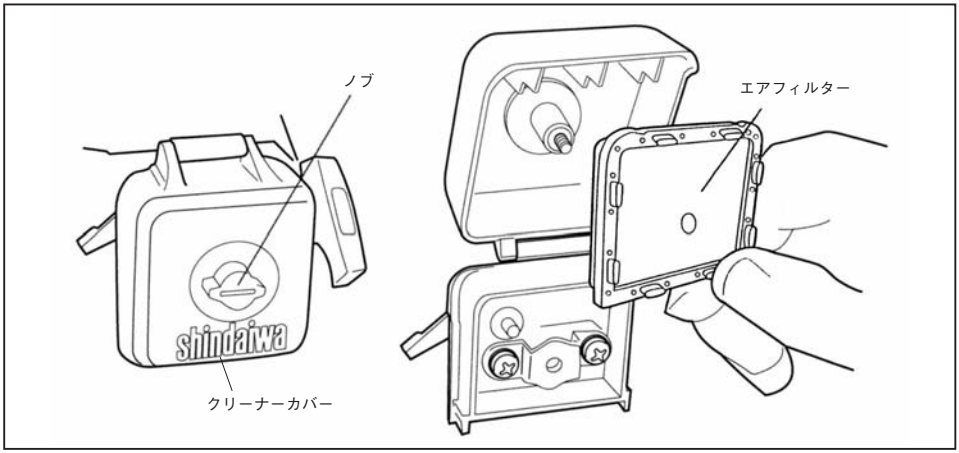
① 高枝プルーナ全体の枝葉やホコリを取除いてください。特に冷却空気の通り路や、エアクリーナー部分の付着物に気をつけてください。
② 各締付部のゆるみ、あるいは部品の脱落がないかをよく調べて下さい。特にバーホルダの締付けボルトが緩んでいないか、確認してください。
③ 燃料やグリースのもれがないか点検してください。

7－2　エアフィルターの掃除

① クリーナーカバーのノブをまわしクリーナーカバーを外してください。
② エアフィルターを取り出してください。
③ エアフィルターを外してごみを落してから中性洗剤又は、石鹸水で洗い、水ですすいで乾燥させてください。
④ クリーナーカバーをもとの通りに取り付けてください。

⚠注　意

■　エアフィルターに水分が残っているとエンジン不調の原因となります。必ず乾燥させて使用してください。



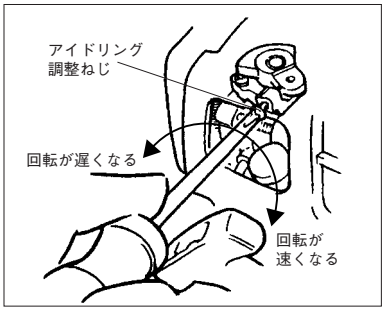
7－3　キャブレターの調整

キャブレターは工場出荷時に調整してありますので、調整の必要はありません。気圧、気候、燃料の違い、10時間以上の使用による状態変化等により、調整が必要になったときにのみ行なってください。
エンジンを始動し、2～3分間の暖機運転の後、次の手順で調整してください。また、エアクリーナーが汚れている場合は掃除してから行ってください。

⚠危　険

■　ソーチェンの周辺に人または干渉物がないことを確認して行ってください。アイドリングの調整時にはソーチェンが動きます。

① アイドリングの回転調整
アイドリング時にはソーチェンが動かないようにアイドリング調整ねじでエンジン回転を下げます。またエンジンが安定して回転するように調整してください。アイドリングの回転数は、2750±250rpmです。



アイドリング調整ねじを
- 右に回すと→回転が速くなる。
- 左に回すと→回転が遅くなる。

⚠注　意

■　不調の場合は、販売店か弊社営業所に調整を依頼してください。

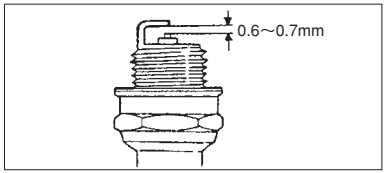
7－4　スパークプラグの点検

⚠注　意

■　スパークプラグを取扱う場合は、エンジンが十分冷えてから行ってください。やけどするおそれがあります。

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドリングが不安定になった場合はまずスパークプラグを点検してください。

① プラグキャップを外し、スパークプラグを付属のプラグレンチで外してください。



② ワイヤブラシでスパークプラグの汚れを落してください。必要なら電極間すきまを調整してください。

■　正しいすきまは0.6～0.7㎜（官製はがき 3 枚の厚さ）です。
■　調整がうまくできない場合は、販売店か弊社営業所に依頼して下さい。

③ スパークプラグを締め付け、プラグキャップをしっかりと奥まで取り付けてください。

注　記

■　約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合はスパークプラグを交換してください。スパークプラグはチャンピオン製CJ8をご使用ください。

7－5　シリンダーフィンの清掃

⚠警　告

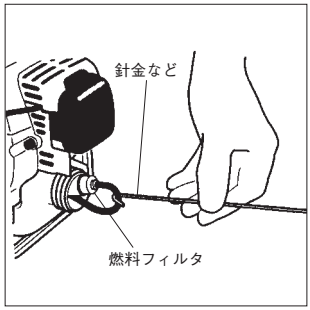
■ **シリンダーフィンの汚れや草のつまりはエンジンの過熱、焼き付きや火災の原因となりますので定期的に点検、掃除してください**

① プラグキャップを外し、シリンダーカバーの取り付けノブをゆるめシリンダーカバーを外してください。
② シリンダーフィンやシリンダーカバー等に付着している草やホコリを取り除いてください。
③ 清掃後はシリンダーカバー及びプラグキャップを組み付け、ノブを確実に締め付けてください。（シリンダカバーを組み付けるときはクランクケースにきちんとはめてください。）



7－6　燃料フィルターの掃除

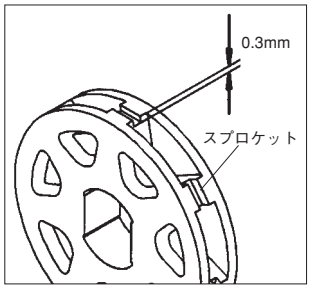
① 燃料注入口から針金などで燃料フィルターを引き出してください。
② 先端の燃料フィルターを取り外しきれいな混合燃料でよく洗ってください。
●燃料フィルターの汚れが落ちない場合は交換してください。
③ 洗浄後、燃料フィルターをもとの通りに組み付けてください。
④ ゴムパイプが折れないようにして燃料フィルターを燃料注入口から、燃料タンク内に戻してください。
このとき、燃料フィルターが燃料タンクの底についていることを確認してください。



7－7　スプロケットの点検

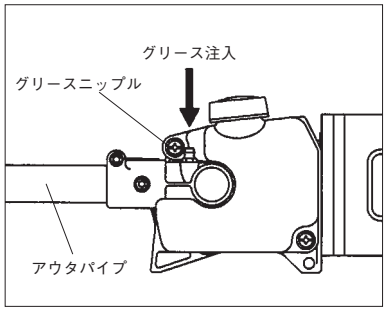
① バーホルダーをはずしてください。

② スプロケットが、摩耗していたらお求めの販売店か弊社営業所にお問い合わせください。交換の目安は段差が約0.3mです。



7－8　グリース補給

グリースは新ダイワ純正リチウム系グリースを使用してください

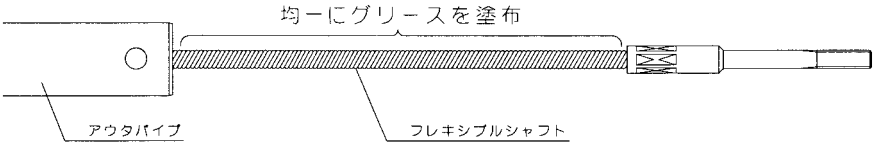


1．ギヤケース

右図のグリースニップルを清掃してからグリースポンプを使用して、グリースを注入してください。
（ギヤケースをアウタパイプから取り外しギヤケースのフレキシブルシャフト差し込み穴からグリースがにじみ出るまで注入してください。）

2．フレキシブルシャフト

ギヤケースをアウタパイプから取り外してください。フレキシブルシャフトを取り出し、全長にグリースを塗布してください。



7－9　ガイドバーの手入れ

① ガイドバーの溝、オイル穴部はいつもきれいにしておいてください。もし切り屑がつまっているときは薄板などで取り除いてください。
ガイドバーやソーチェンの摩耗を防ぎ寿命がのびます。

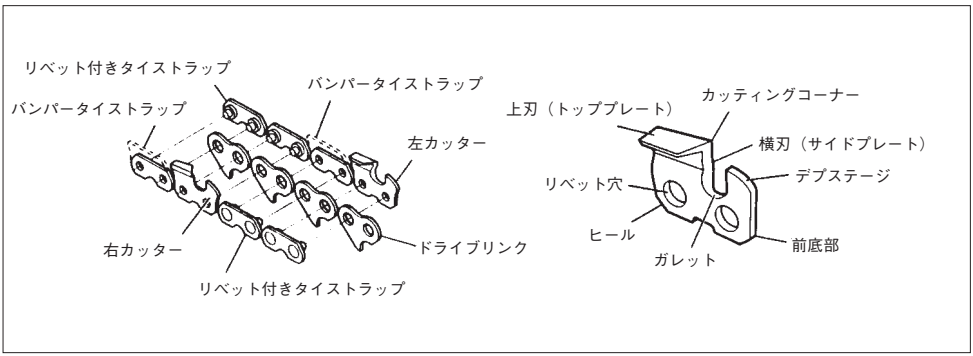
② ソーチェンの目立てや交換をするときは、ガイドバーの上下を裏返してください。ガイドバーの片側のみが摩耗するのを防ぎ、寿命がのびます。

③ ガイドバーの溝が浅くなり、ドライブリンクの足がバー溝の底に接触する前にガイドバーを交換してください。
ソーチェンの弛み、ソーチェンの外れ、ソーチェンのたおれを防ぎます。

7－10　ソーチェンの点検と目立て

1．ソーチェン各部の名称

① ドライブリンクはガイドバーの溝にたまった切り屑を排出する働きがあります。
② デプスゲージは切断の時、木材に対するくい込み量を制限する働きがあります。



2．点検

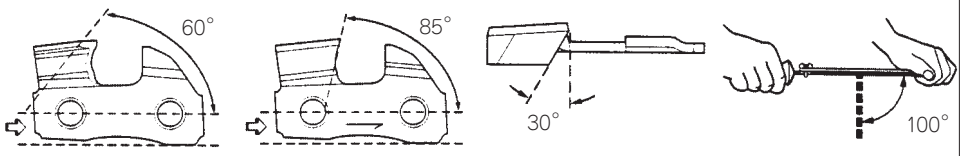
カッターが摩耗していたら目立てをしてください。ソーチェンがヤニなどで汚れていたら洗浄液などで洗い、オイルに浸して、錆の発生を防止してください。ソーチェンの各部品に破損があった場合はお求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。

3．目立てのしかた

① 目立てのポイント
すべてのカッターを鋭利にし、左右のカッターの角度とデプスゲージをそろえます。

② 目立て角度

φ3.97mm の丸ヤスリを使用してください



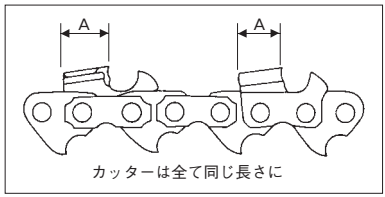
上刃切削角度　横刃目立て角度　上刃目立て角度　ヤスリガイド角度

③ 目立ての手順
前項の目立て角度になるように下記の手順で目立てを実施してください。

1）必ず、カッターの内側から外側に向かって、3.97mmの丸ヤスリでヤスリがけしてください。

2）カッターは、必ず自分から見て反対側のカッターを全部とぎ、次に向きを変え、反対側のカッターをといでください。

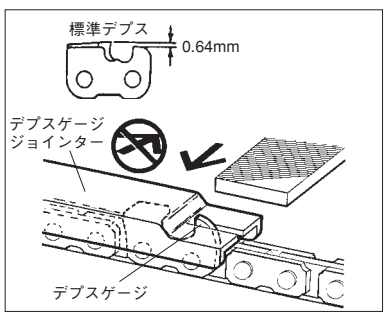
3）カッターは、Aの寸法をすべて同じ長さにそろえてください。



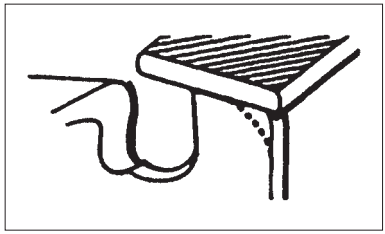
4）トッププレート、及びサイドプレートに傷がある場合は傷がなくなるまで目立てを行ってください。

④ デプスゲージの調整
目立てが完了したらデプスゲージの調整を行ってください。

1）デプスゲージジョインター0.64mm（0.025”）をカッターの上に置き、デプスゲージが出ているときはヤスリで平ら（0.64mm）になるまでといでください。



2）とぎ終わったら、前方の角を丸くしもとのデプスゲージの形にしてください。

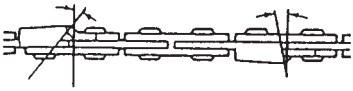


ソーチェン目立ての良い例



ソーチェン目立ての悪い例

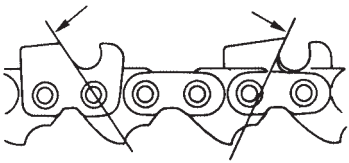
（イ）すべての刃の角度がそろっていない



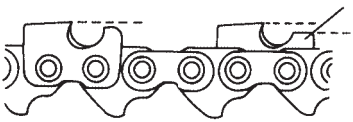
（ロ）すべての刃の長さがそろっていない



（ハ）すべての刃の横刃がそろっていない



（ニ）すべてのデプスケージがそろっていない



8．長期保管

次の手順に従って保管してください。

① 損傷箇所がある場合は、修理してください。

② 各部を十分に掃除して、ソーチェンにはチェンオイルを塗ってください。

③ 点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。

④ 燃料タンクの燃料を全部排出してください。

⑤ エンジンを始動し、ギャブレター内に残った燃料を使いきってエンジンが停止するまで低速で運転してください。

⑥ チェンカバーを装着してください。

⑦ スパークプラグをはずし、スパークプラグ穴から少量のオイルをシリンダ内に流し込み、オイルがゆきわたるように 2 ～ 3 回リコイルスターターをゆっくり引いてください。

⑧ スパークプラグをもと通りに取り付けてください。

⑨ クリーナーカバーを外しフィルターを掃除して、もと通りに取り付けてください。

⑩ 乾燥した火気のない冷暗所に保管してください。

⚠注　意

■ **燃料タンク、フューエルパイプ、キャブレターの中に燃料が残った状態で長期保管をしないでください。燃料が変質し、故障の原因となります。**

9．故障の診断と処置

9—1　エンジンが始動しない場合

区　　分	原　　因	処　　置	参照ページ
リコイルスターターが引けない	・リコイルスターター故障	販売店で修理	—
	・ピストン焼き付き		
圧縮が弱い	・スパークプラグの緩み	締め付け	31
	・シリンダー、ピストン、ピストンリングの摩耗	販売店で修理	—
燃料の不良	・燃料の変質	新しい混合燃料を給油	19
キャブレターに燃料が来ない	・燃料フィルターの目づまり	清掃	32
	・燃料パイプの破損	販売店で修理	—
スパークプラグが発火しない	・スパークプラグが濡れている	スパークプラグを乾燥させ、リコイルスタータを回しシリンダ内の燃料を排出し、再始動	23
	・スパークプラグにカーボン付着	清掃	31
	・スパークプラグすきま不良	0.6mmに調整 販売店で修理	31
	・電装部品の故障	販売店で修理	—
	・スパークプラグが損傷又は種類が違う	新しいスパークプラグに交換（チャンピオン製CJ8）	—

9—2　力がない場合

区　　分	原　　因	処　　置	参照ページ
エンジンの過熱	・過負荷使用	ゆっくり切断する	—
	・燃料混合比不良	正しい混合比の燃料を給油する	19
	・シリンダーフィンにゴミが付着	清掃	32
	・ピストン上部、マフラー内カーボン付着	販売店で修理	—
エンジンの回転むら	・エアフィルターの目づまり	清掃	29
	・スパークプラグの締め付けがゆるいまたは不良	締め付けまたは交換	31
	・燃料フィルター、パイプの詰まり、またはエア混入	販売店で修理	—
	・燃料に水の混入	燃料交換	19
	・ピストン焼き付き	販売店で修理	—
	・キャブレター不良		
ノッキング	・エンジンの過熱	上記参照	—
	・燃料不良	燃料交換	19
	・シリンダー内カーボン付着	販売店で修理	—

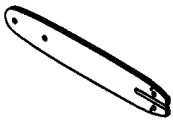
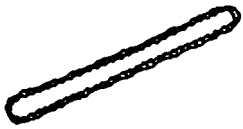
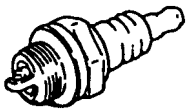
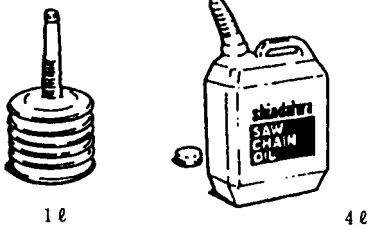
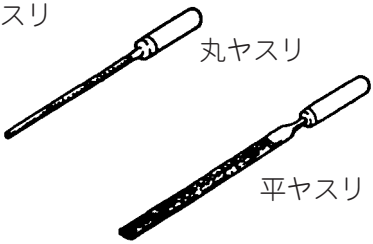
9—3　その他の故障

区　　分	原　　因	処　　置	参照ページ
加速不良	・エアフィルター目詰まり	清掃	29
	・アイドリング回転数が低い	アイドリング調整ねじで調整	30
	・ソーチェンの調整不良	ソーチェンの調整	17
運転中にエンジン停止	・燃料の欠乏	燃料給油	19
	・燃料フィルター目づまり	清掃	32
	・燃料に水の混入	燃料交換	19
	・スパークプラグのカーボン付着による短絡	清掃	31
	・プラグキャップの抜け	確実に取付ける	—
	・電装部品の故障	販売店で修理	—
	・ピストン焼き付き		
エンジン停止困難	・スイッチ故障	販売店で修理	—
	・アース線の断線		
	・エンジン過熱	アイドリングにして冷却	—
エンジンの回転を下げてもソーチェンが止まらない	・クラッチ故障	販売店で修理	—
	・アイドリング回転数が高い	アイドリング調整ねじで調整	30
エンジンの回転を上げてもソーチェンが動かない	・ギヤケース・クラッチの故障	販売店で修理	—
	・スプロケットの破損		
	・ソーチェンの調整不良	ソーチェンの調整	17

9―3　その他の故障（つづき）

区　　分	原　　因	処　　置	参照ページ
オイルが出ない	・オイルの欠乏	オイル給油	20
	・吐出量がすくない	給油量の調整	27
	・パイプの詰まり、やぶれ	販売店で修理	―
	・オイルフィルターの目づまり		
	・オイルポンプの故障		
	・ウォームギヤの破損		

10. 主な消耗品(お買い上げの販売店にご用命下さい)

品　　名	規　　格
ガイドバー 	200mm（8インチ）
ソーチェン 	25AP-48E（200mm）
スパークプラグ 	チャンピオンCJ8
ソーチェンオイル 	ソーチェンオイル （または、 SAE10W-30 相当品）
目立てヤスリ 	φ3.97mm 幅9mm（相当）

新ダイワ工業株式会社

本社	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2001
札幌営業所	〒065-0033	札幌市東区北三十三条東17丁目4-17	☎ 011-783-7551
仙台営業所	〒984-0042	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22-45	☎ 022-239-1688
郡山出張所	〒963-0107	福島県郡山市安積町2丁目341-1	☎ 024-945-8678
盛岡営業所	〒020-0122	岩手県盛岡市みたけ4丁目3-5	☎ 019-641-3416
東京営業所	〒134-0083	東京都江戸川区中葛西6丁目17-8	☎ 03-3687-5771
千葉事務所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀3丁目19-1	☎ 043-214-0260
多摩出張所	〒192-0043	東京都八王子市暁町2丁目6-3	☎ 0426-20-5590
横浜事務所	〒222-0025	神奈川県横浜市港北区篠原西町34-33	☎ 045-431-7786
厚木事務所	〒243-0014	神奈川県厚木市旭町5丁目47-18	☎ 046-228-2243
静岡出張所	〒422-8046	静岡市中島2834-1	☎ 054-282-7012
大宮営業所	〒330-0031	埼玉県さいたま市吉野町1丁目19-4	☎ 048-666-2521
宇都宮出張所	〒321-0912	栃木県宇都宮市石井町3149-28	☎ 028-656-8737
土浦事務所	〒300-0815	茨城県土浦市中高津1丁目12-48	☎ 0298-24-5212
前橋出張所	〒371-0037	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	☎ 027-234-5956
長野出張所	〒381-0043	長野市吉田5丁目24-16	☎ 026-244-3970
松本事務所	〒399-0025	長野県松本市寿台9丁目4-16	☎ 0263-85-5446
新潟出張所	〒950-0892	新潟市寺山3丁目32-12	☎ 025-275-5616
名古屋営業所	〒454-0826	愛知県名古屋市中川区小本本町1-75	☎ 052-362-2281
浜松事務所	〒435-0053	静岡県浜松市上新屋町231-6	☎ 053-467-0394
津出張所	〒514-0823	三重県津市大字半田池町590-5	☎ 059-227-2716
岐阜出張所	〒500-8367	岐阜市宇佐南4丁目2-4	☎ 058-271-4015
金沢出張所	〒920-0016	石川県金沢市諸江町中丁344	☎ 076-237-1230
大阪営業所	〒556-0022	大阪市浪速区桜川4丁目11-20	☎ 06-6561-8484
和歌山事務所	〒640-8482	和歌山市六十谷1234-7	☎ 073-462-7277
京都出張所	〒601-8304	京都市南区吉祥院前河原町1	☎ 075-321-0141
姫路出張所	〒670-0061	兵庫県姫路市西今宿5丁目5-4	☎ 0792-98-1250
松山出張所	〒791-8016	愛媛県松山市久万ノ台223	☎ 089-922-8886
高松営業所	〒761-0101	香川県高松市春日町片田1638-7	☎ 087-843-1201
徳島事務所	〒770-0942	徳島市昭和町6丁目76-105	☎ 088-622-8183
高知事務所	〒780-0815	高知市二葉町18-11	☎ 088-883-7255
広島営業所	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2400
防府事務所	〒747-0031	山口県防府市迫戸町5丁目25	☎ 0835-27-0575
米子事務所	〒683-0035	鳥取県米子市目久美町23-4	☎ 0859-34-7822
岡山出張所	〒700-0965	岡山市西長瀬261-104	☎ 086-241-3013
福岡営業所	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3丁目5-22	☎ 092-411-9801
小倉出張所	〒803-0826	福岡県北九州市小倉北区高峰町10-8	☎ 093-561-3422
諫早出張所	〒854-0062	長崎県諫早市小船越町1021-3	☎ 0957-23-3341
大分出張所	〒870-0155	大分市高城南町7-13	☎ 097-552-1745
熊本出張所	〒862-0910	熊本市健軍本町7-17	☎ 096-365-0484
宮崎出張所	〒880-0022	宮崎市大橋3丁目134-2	☎ 0985-23-2126
鹿児島営業所	〒890-0073	鹿児島市宇宿2丁目23-18	☎ 099-257-6801

010823